

平成19年3月5日（月）

（午前10時41分 再開）

○議長（上田順康君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い一般質問を行います。

順番2、6番 中本君。

〔6番（中本正人君）登壇〕

○6番（中本正人君）それでは、ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問させていただきます。

市議会議員としまして、任期最後の定例会の一般質問を、公用車の集中管理についてお伺いしたいと思います。

私は、17年9月定例会において、公用車の集中管理について質問させていただきました。当局としても、過去において集中管理体制をとった経緯もあるが、業務の増加により、また車両の増加も著しく、集中管理が困難になり、現在の各課対応になったと聞いております。私としましては、業務の増加、車両の増加であれば、なおさら集中管理をする必要があるのではないのかなと思いました。が、当局の最終答弁としまして、合併後1年後の高野口出張所廃止の際に、本庁管理車両分について、総務部内において一括管理し、調整をしたい。そして、他市の事例等も調査研究し、視察にも行き、公用車集中管理体制をとっていけるようにしたいと答弁いただいております。

同様の質問を、昨年12月定例会において24番議員もしており、19年度より公用車の集中管理を拡大実施すべく、現在、集中管理できる車両の抽出作業を進めているという答弁をされており喜んでおります。しかし、現時点では、まだ集中管理体制をどのような形でもっていくのかは決めかねているとのことでした。

た。

そこで、お伺いしたいことは、本市の集中管理体制をどのような形でやられるのか。また、集中管理台数は何台考えておられるのかをお伺いして、私の1回目の質問を終わります。明解なる答弁をよろしくお願いします。

○議長（上田順康君）6番 中本君の一般質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）それでは、公用車の集中管理についてのご質問にお答えをさせていただきます。

平成19年度からの公用車の集中管理の拡大実施につきましては、橋本市の全公用車292台の中で、特殊車両、原付及びバスなど特別な事情があるものを除きました143台を対象にヒアリングを行うとともに、再度調査検討した中で、出先機関、個人管理、条件付き車両に該当するものについては、さらに集中管理車両の対象から除外した結果、最終的に46台を集中管理車両として管理を行います。

また、集中管理車両用駐車場につきましては、本庁舎東側立体駐車場を利用いたします。なお、管理体制といたしましては、車両管理専門業者に業務委託をし、貸出車両の使用点検、車両内外の清掃、12カ月点検やオイル交換等の日常及び定期のメンテナンスを行うことにより、運転者が安心・安全に運転できるとともに、車両の維持管理経費の削減を図ってまいります。

続きまして、公用車集中管理の拡大実施による車両数の削減につきましては、平成18年度におきまして21台の廃車を行う予定であります。このことにより、年間約220万円の車両

維持管理経費の削減となります。また、平成19年度以降につきましては、集中管理車両の利用状況や車両の状態等、データを取りながら、年式及び走行距離による廃車や稼働率の低い車両の廃車を順次行い、公用車台数の適正化及び維持管理経費の削減を図ってまいりたいと考えておりますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（上田順康君）6番 中本君、再質問ありますか。

6番 中本君。

○6番（中本正人君）ありがとうございます。

ただ今、業者委託するという事、そして46台を集中管理していくという事をお聞きして、一応安心しました。

当局にとりまして集中管理していただけるというのは、私も確信しておったんですが、昨年12月定例会におきまして、24番議員が同様の質問をしている中で、当局の答弁として三つ今思案しているという事を言われてました。一つは業者委託、普通にしても、やはりそれなりの予算を計上しなければいけないというのが一つ。そして二つ目として、市職員の中で車両管理できないものかなということも言っておられましたけども、それも果たしてどこまでできるかというのも、これも心配があるということ。そして、検討案というんですか、各部局内で所管課をつくって、一つの所管課で管理していくという、そういう三つを挙げておられましたけども、それを私聞きまして、果たして一体どのような管理体制をとっていくのかなという不安がありましたので、今回の質問になったということです。実際、今の答弁を聞きまして、業者委託していくという、これが一番いいのではないのかなということで、私も安心しております。

そこで、私、ちょっとお聞きしたいんです

けども、この143台の中から46台を集中管理していくということですけども、これ、どういふところを重点に見て、この管理車両となったのか、ちょっと参考がてらお聞きしたいと思えますし、この46台は、現在8台の集中管理していましたわね。それも含めての46台なのか、それとも46台プラス8台で54台になるのか、それもひとつお聞きしたいと思えますので、よろしくお願い致します。

○議長（上田順康君）6番 中本君の再質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（中山哲次君）それでは、お答えをさせていただきます。

まず1点目の143台のヒアリングの中で、どういふ項目で46台に絞り込んだのかということでございますけれども、まず、各出先機関、町外職場といいますか出先機関につきましては、距離的な問題もありまして、いざ緊急時に市役所までとりに来るといふことはできませんので、出先1カ所当たりは1台ということが必要だということで、出先機関配置車両につきましては、27台はそのまま据え置いております。

あと、個人管理車両と表現させていただいておりますが、各、納税課であれば税の徴収関係、それから介護調査士、保健師、これは介護高齢課の所管になりますけれども、これは朝使用時と同時に時間関係なく現場へ、また市民の方々の関係者の方々のところへお邪魔しなければならぬというようなこと、特殊要因もございますので、この部分につきまして、また、介護支援員、地域包括支援センターでございますけれども、ここの車両につきましてもヒアリングの結果、集中管理から外させていただいております。これがちなみに26台でございます。

それから、条件付き車両で23台、これも集

中管理から除いております。これにつきましては、特に事業課なんかでありますと、朝から晩まで現場管理で、どうしても集中管理しましても、朝貸し出しますと夕方まで必要になってくるという車両が19台。それからケースワーカー用、それから行路人对応用の車両、あと出先の出張用等で23台でございます。

それから、先ほど申しあげました廃車予定車両につきましては21台。平成18年度中に廃車手続を進めてございます。

そういうことで143台中46台ということで、ちなみに2点目の、今現在総務課で管理しております8台は、46台の中に含んでございませぬ。ですから、新たに38台の集中管理の増車と。

以上でございます。

○議長（上田順康君）6番 中本君。

○6番（中本正人君）ありがとうございます。

続きましてお聞きしたいんですけども、19年度予算において、集中管理費として630万円上げられておりますけれども、この内訳というのはどういうふうになっているのかお聞きします。

○議長（上田順康君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）お答えをさせていただきます。

まず、内訳といたしましては、8時から通常5時半までで職員、専門委託業者の技術的資格を持っている、能力を持っている職員が1名、それから午前5時間だけがパート1名ということで、積算内訳といたしましては、月に50万円で12カ月、消費税を抜きまして630万円、年ということで、車両管理、車両清掃、それから車両の点検、エンジン内等の整備と、そういう項目で業者委託を予定してございます。

○議長（上田順康君）6番 中本君。

○6番（中本正人君）これ、以前、一応当局も集中管理について研究して、視察も行くというふうに言っておられましたけども、私、ちょっと河内長野市も多分行かれたと思いますけども、河内長野市のちょっと調べたところ、あそこも二人で集中管理業務をやっていると。その中で、金額として河内長野市は680万円でしたかな。たしか680万円で業者委託をやってますけども、その二人のうち一人はマイクロバス運転手も兼ねているというふうに言われてましたわね。ということは、本市でも運転士専用で雇ってますけども、こういうふうには、河内長野市のように、業者委託をする中でマイクロバス運転も兼ねているということをお考えますと、一人で二役の仕事をしてきているということになるわけで、こういうことが経営の上から見たとき、やはり考えてもらわなくてはいけないんじゃないかなと思いますけども、この辺をいっぺん、どういうふうには当局として考えているのかということをお聞きしたいと思います。

ですから、先ほど言いましたように、業者委託して、管理内容は今お聞きしたのでよくわかりましたけども、ただのそれだけで630万円になる、一人ひとり。午前中だけでしょう。それで630万円となれば、河内長野市から比べた場合、少し高いんじゃないのかなという感じもするんですけども、その辺、いかがなものでしょうか。

○議長（上田順康君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）河内長野市の事例もそういうことでご意見いただいたわけですが、今この段階で予算上とりあえず、この予算で計上させていただいて、予算を認めていただいた段階で入札という話になってこようかと思っております。

それで、ただ一点、私ども気になっておりますのは、今後この集中車両が、この今の台

数がどう実績に基づいて推移していくのかというようにも気になっておるところでございます。結果的にこの1年間、まずはデータといいますか実績を押さえさせていただいて、46台で、極端な例でございますけれども、公用車の駐車場の中でほこりをかぶって一日も動かない車両が数台発生してくるのか、46台では足りないという現状が発生してくるのかというようなことも、ひとつ気になっておる点でございます。

そういうことで、今現在うちのほうでは、マイクロバスの運転とは別個になっておりますので、その点は、今後現場入札執行していく中で、再度、仕様については慎重に議論させていただきたい。ただ、今現在予算計上させていただいておりますのは、先ほどご答弁させていただいた内容になってございます。

○議長（上田順康君）6番 中本君。

○6番（中本正人君）よろしくお願ひしたいと思ひます。

17年の9月議会においてでも、私言ったと思ひますけれども、この河内長野市では、車検を出す前に業者委託に点検をしてもらって、悪い場所、いい箇所、やはり先にもって点検していると。そういうことによって、かなりの車検費用が違ってくるということも聞いてくれると思うんですけども、その辺までやっぱり徹底的にやってほしいなというふうに私は思うんです。ですから、この財政厳しい中、いかに歳出を押さえるかということはもちろんのことですので、やはりできるだけのをやっていって、最終的に当局として、今現在、総数292台か3台ある車両を、最終的に当局としての考えとして、何台ぐらいにもっていきたいのかなという、もし、そういうお気持ちがあるのであれば、ちょっと教えていただきたいと思ひますけれども。

○議長（上田順康君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）まず、最後のほうのご質問、ちょっと私、聞き取りにくかったので、もう一度言ひます。最後のほう言ひます。

冒頭、まず一点、車検費用が安くなるということにつきましては、うちのほうも今回の委託業務の中で、日常の車両点検の中で事前に点検をしていただくと。以前の集中管理の方式でございますと、一職員が直接整備技術的な経験がない中でやっておりましたので、洗車、ワックス等が主な、キーの管理、そういったものが主なものでございましたけれども、今回、今予定しておりますのは、そういう、今議員ご指摘のとおり、車検までに通常の日常業務の中でエンジンオイル、ブレーキオイル等々も含めまして、ベルトの傷み、プラグの傷み等々についての点検をしていただいて、車検費用は安くしていくというようなことでは、議員ご指摘のとおり考えておりますので、よろしくご理解賜りたいと思ひます。

ただ、最後のほう、ちょっと聞きもらしましたので。

○議長（上田順康君）6番 中本君。

○6番（中本正人君）もう一度言ひますけれども、実際ね、今、河内長野市を例に出しますと、12万人口の中で本庁が保有している公用車が100台ですわね。そのうち30台を集中管理しているということですけども、本市では7万の中で292台、本庁所有のあれは143台ですか。やはり実質的に僕は多いという中で、たしかに削減等についても努力してくれているのはわかっているんですけども、2年後、3年後、5年後には、極端に言えば、今の台数をどの辺ぐらいにまでもって、削減していきなという、そういうお考えがあればお聞かせ願ひたいと思ひます。そういうことです。

○議長（上田順康君）総務部長。

○総務部長（中山哲次君）大変失礼しました。

今後、まず、結論から申し上げて、我々総務課としましては減らしていきたいと。まだこれ以上に減らしていきたいと考えております。ただ、今までの各課配置になっておりますと、走行距離等では運行日誌ではわかっておりますが、現実的に8時間のうちにどれぐらいの稼働をしておるのかというようなこと、距離的な問題と時間的な問題で、なかなか実態がつかみ切れてない状況もございます。各課管理になっておりますので。

そういうことで、例えば今後、朝貸出をして、午前と午後1回使うとなりますと、もう5時半まで貸出をしておくのか、いったん返してもらうのかというようなことも含めまして、基本的には、とりあえずこの1年間の実績を見させていただいて、先ほどもご答弁させていただきましたが、公用車の駐車場ではこりをかぶっておると、ほとんど走っていない車両が発生したときには、当然積極的に車両の削減を図ってまいりたいと考えておりますし、河内長野市のやり方といいますか、人口規模から考えまして、台数が異なっておりますので、そこらも再度また検討もしてまいりたいと考えております。

○議長（上田順康君）6番 中本君。

○6番（中本正人君）ただ今の部長の答弁聞きまして、一応安心しました。というよりも、やはりこれから、1台でも多くの公用車を削減できるように努力していただきたいということを要望して終わります。

○議長（上田順康君）これをもって、6番 中本君の一般質問は終わりました。